

清須市 福祉に関するアンケート調査

**令和2年9月
清須市**

目 次

第1章 調査実施の概要	3
1 調査の目的	3
2 調査の種類と実施方法	3
3 調査票の配布と回収状況	3
4 報告書の見方について	3
第2章 アンケート調査結果	7
1 調査対象者の状況	7
(1) 調査票への回答者	7
(2) 調査対象者の年齢・性別	7
(3) 居住地区	8
2 障がいの状況について	9
(1) 身体障害者手帳	9
(2) 療育手帳	10
(3) 精神障害者保健福祉手帳	10
(4) 障がい等の認定や診断	11
3 医療について	12
(1) 医療ケアの状況	12
4 介助について	13
(1) 日常生活の自立状況	13
(2) 介助者の状況	14
5 住まいや暮らしについて	16
(1) 住まいや暮らしの状況	16
6 日中活動について	19
(1) 外出の状況	19
(2) 平日の日中の過ごし方	21
7 就労について	22
(1) 就労の状況	22
(2) 就労の希望状況	22
8 障害福祉サービス等の利用について	24
(1) 障害支援区分の認定状況	24
(2) 障害福祉サービスの利用状況と利用意向	25

(3) 介護保険サービスの利用状況.....	28
9 自由意見のまとめ.....	29
資 料 編.....	39

第1章

調査実施の概要

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

清須市では、令和3年度を初年度とする第6期障害福祉計画、第2期障害児福祉計画を策定するにあたって、障がいのある人を対象に、福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握するためのアンケートを実施しました。

2 調査の種類と実施方法

調査の種類と実施方法は以下のとおりです。

調査票「福祉に関するアンケート」	
調査対象者	本市に居住する身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持者、障害者福祉金受給者、障害福祉サービス利用者
調査票配布数	3,112人
調査期間	令和2年7月14日～令和2年7月28日
調査方法	郵送による配布・回収

3 調査票の配布と回収状況

調査による配布・回収状況は以下のとおりです。

	配布数（件）	回収数（件）	回収率（%）
福祉に関するアンケート	3,112	1,496	48.1

4 報告書の見方について

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100.0%にならない場合があります。

第2章

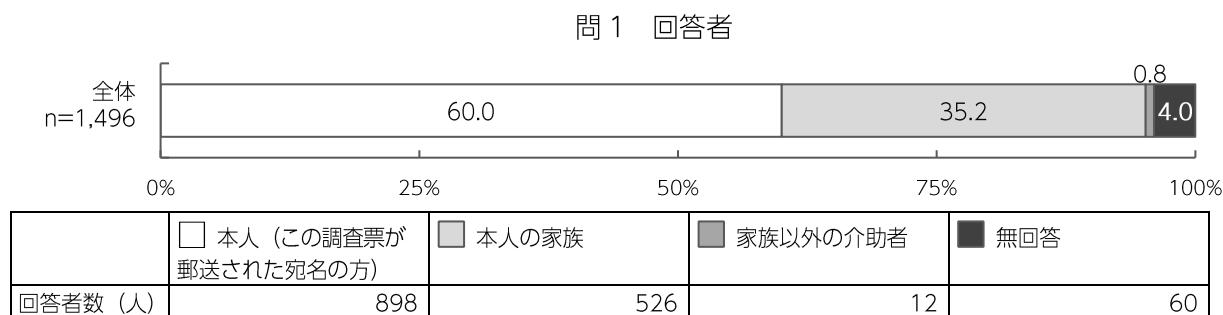
アンケート調査結果

第2章 アンケート調査結果

1 調査対象者の状況

(1) 調査票への回答者

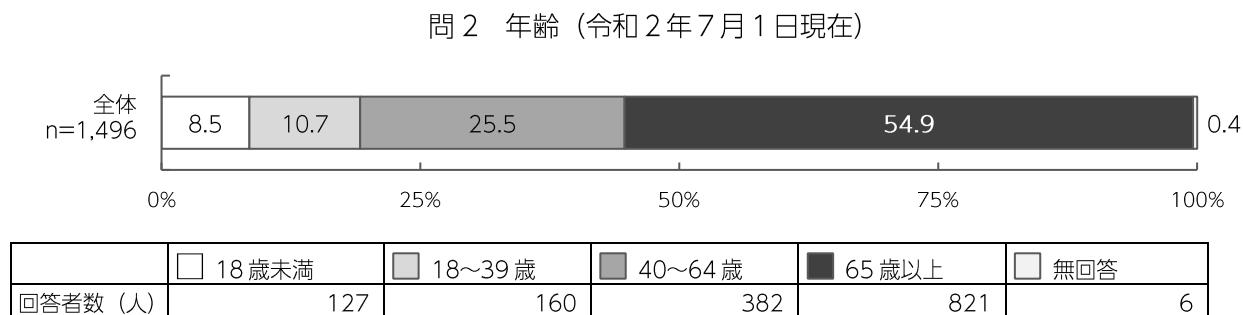
○回答者は、「本人（この調査票が郵送された宛名の方）」（60.0%）の割合が最も高く、次いで「本人の家族」（35.2%）、「家族以外の介助者」（0.8%）となっています。



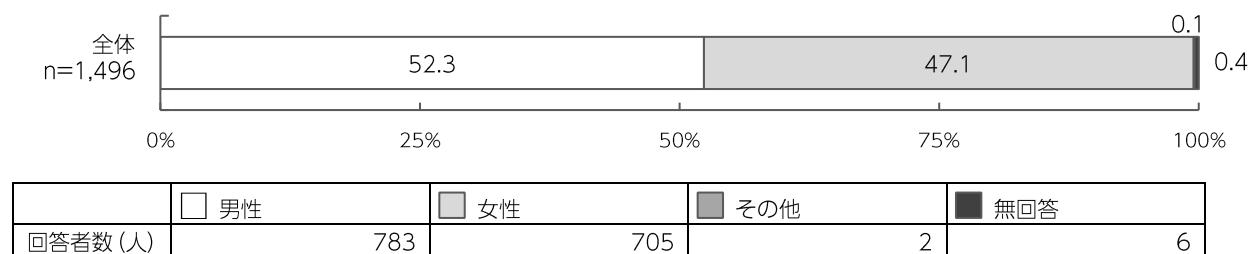
(2) 調査対象者の年齢・性別

○対象者の年齢は、「65歳以上」（54.9%）の割合が最も高く、次いで「40～64歳」（25.5%）、「18～39歳」（10.7%）となっています。

○性別は、「男性」が52.3%、「女性」が47.1%となっています。



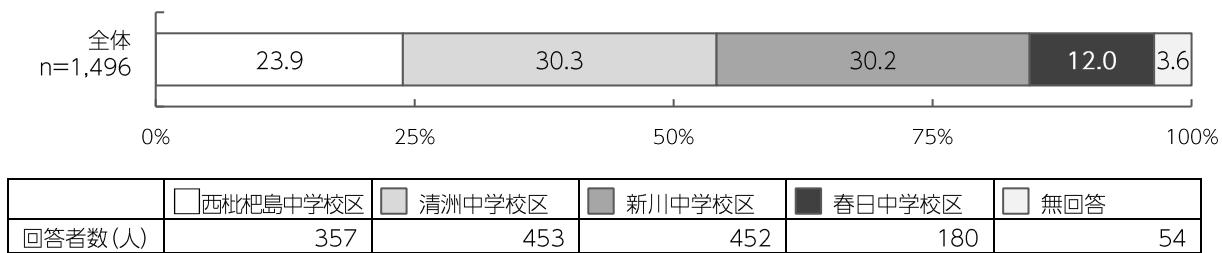
問3 性別



(3) 居住地区

○居住地区は、「清洲中学校区」(30.3%)の割合が最も高く、次いで「新川中学校区」(30.2%)、「西枇杷島中学校区」(23.9%)、「春日中学校区」(12.0%)となっています。

問4 居住地区

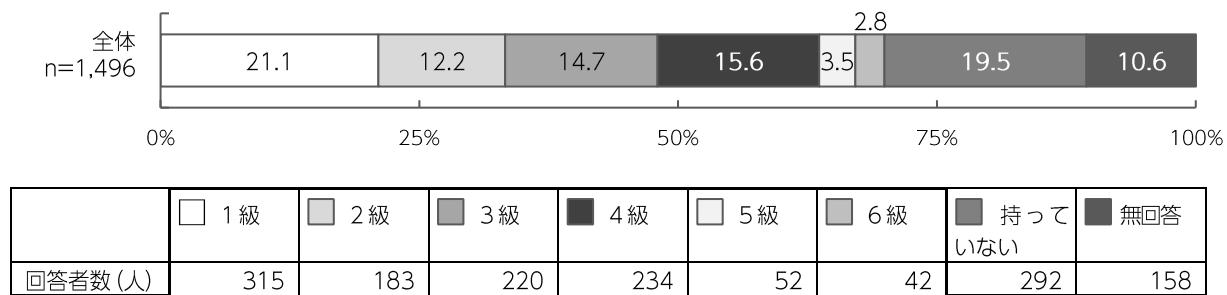


2 障がいの状況について

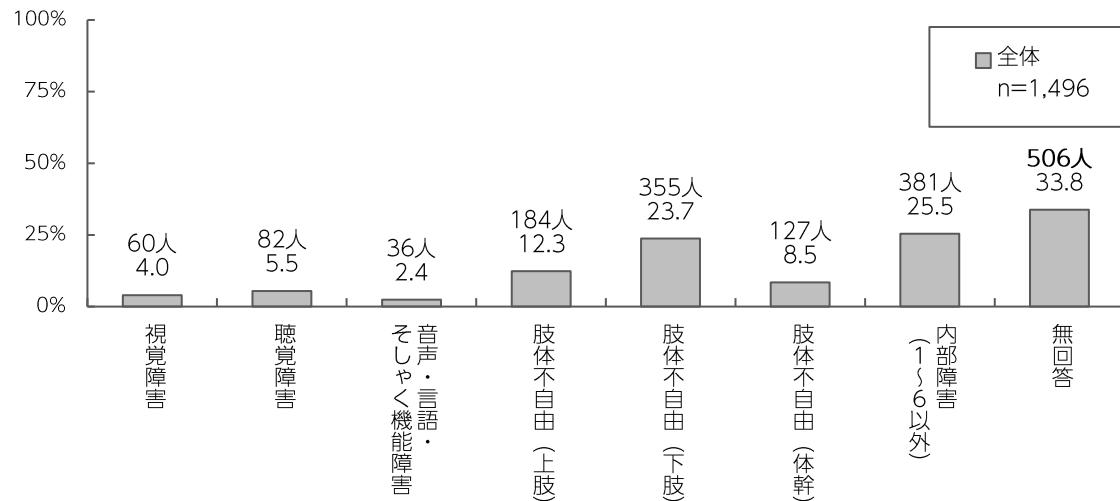
(1) 身体障害者手帳

- 身体障害者手帳を持っている方は69.9%となっています。等級をみると、「1級」(21.1%) の割合が最も高く、次いで「4級」(15.6%)、「3級」(14.7%) となっています。
- 身体障害者手帳を持っている方の主たる障がいをみると、「内部障害」(25.5%) の割合が最も高く、次いで「肢体不自由（下肢）」(23.7%)、「肢体不自由（上肢）」(12.3%) となっています。

問9 身体障害者手帳の所持状況



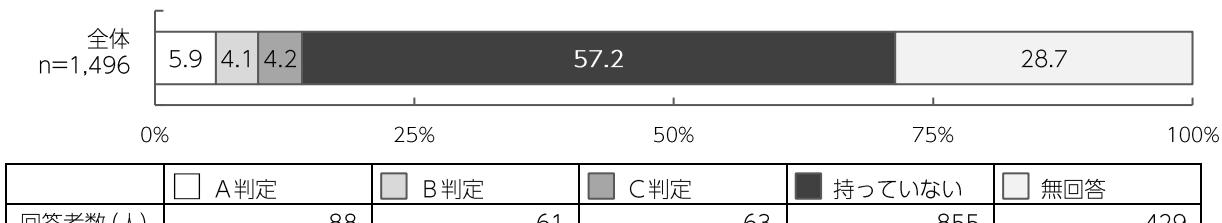
問10 身体障がい者の主たる障がい



(2) 療育手帳

○療育手帳を持っている方は14.2%となっています。判定をみると、「A判定」(5.9%)の割合が最も高く、次いで「C判定」(4.2%)、「B判定」(4.1%)となっています。

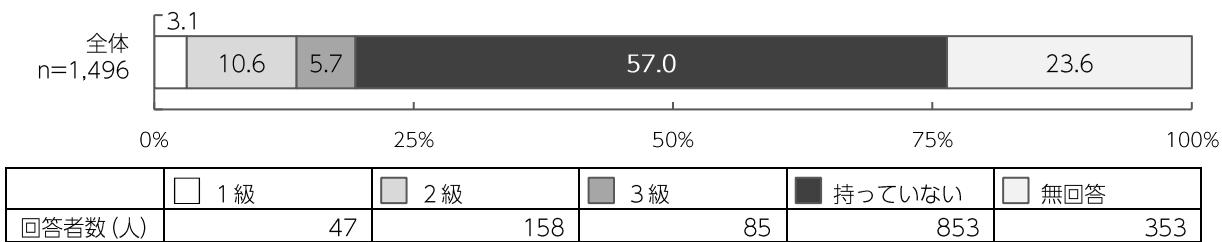
問 11 療育手帳の所持状況



(3) 精神障害者保健福祉手帳

○精神障害者保健福祉手帳を持っている方は19.4%となっています。等級をみると、「2級」(10.6%)の割合が最も高く、次いで「3級」(5.7%)、「1級」(3.1%)となっています。

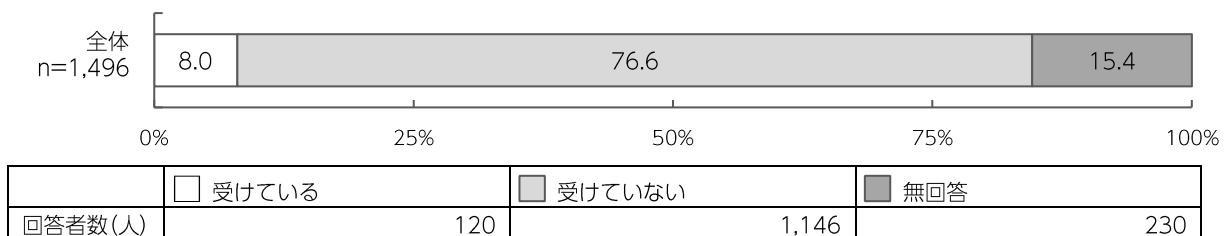
問 12 精神障害者保健福祉手帳の所持状況



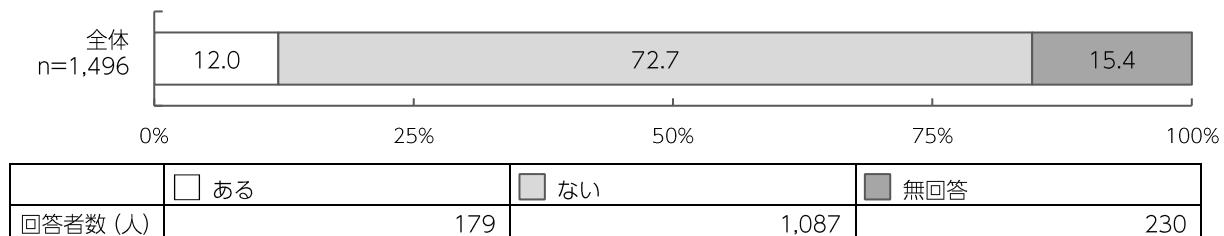
(4) 障がい等の認定や診断

- 難病の認定を「受けている」方は、8.0%となっています。
- 発達障がいと診断されたことが「ある」方は、12.0%となっています。
- 高次脳機能障がいと診断されたことが「ある」方は、5.2%となっています。

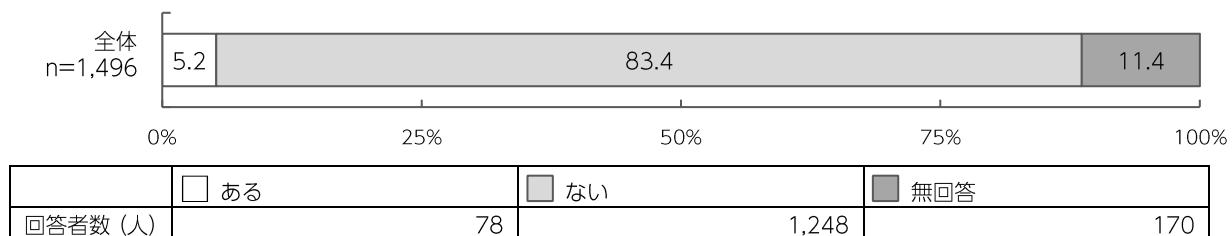
問 13 難病の認定状況



問 14 発達障がいの診断状況



問 15 高次脳機能障がいの診断状況

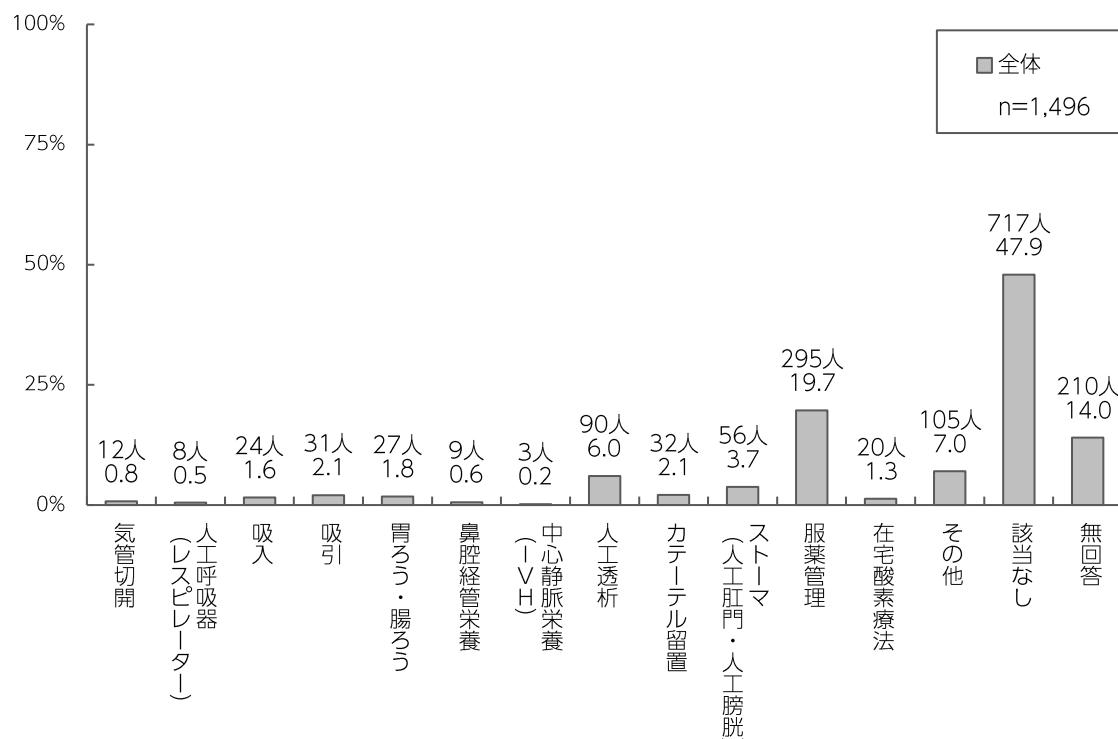


3 医療について

(1) 医療ケアの状況

○現在受けている医療ケアについては、「該当なし」を除くと、「服薬管理」(19.7%) の割合が最も高く、次いで「人工透析」(6.0%)、「ストーマ（人工肛門・人工膀胱）」(3.7%) となっています。

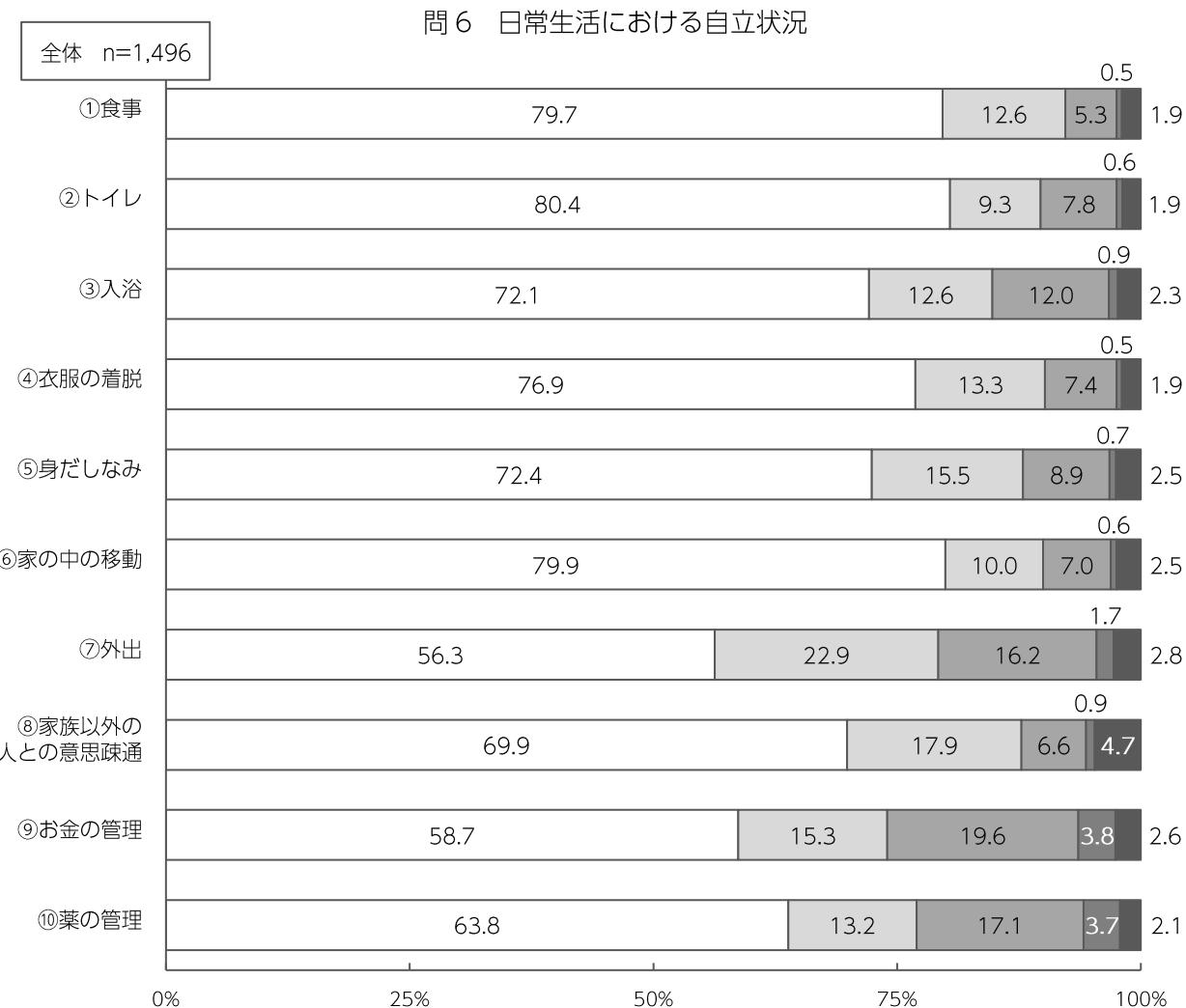
問 16 現在受けている医療ケア



4 介助について

(1) 日常生活の自立状況

○日常生活の自立状況をみると、「一部介助が必要」と「全部介助が必要」を合わせた介助が必要な方の割合は、「外出」(39.1%)、「お金の管理」(34.9%)、「薬の管理」(30.3%) の順で高くなっています。

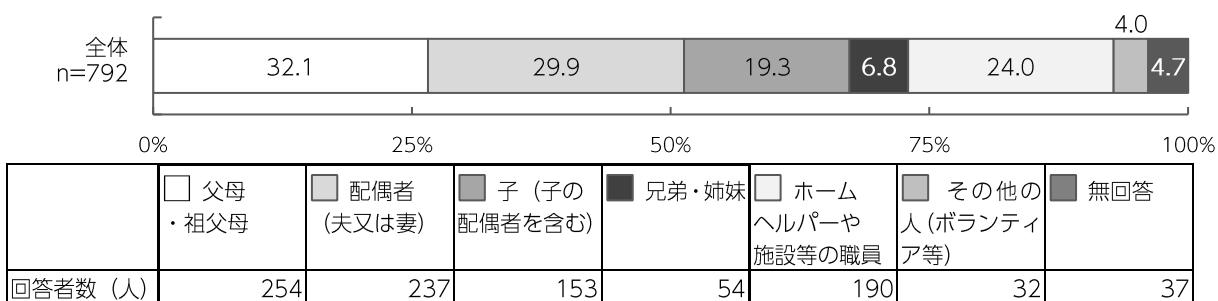


回答者数 (人)	□ 一人でできる	■ 一部介助が必要	■ 全部介助が必要	■ 一人でできる年齢になっていない	■ 無回答
①食事	1,192	188	79	8	29
②トイレ	1,203	139	117	9	28
③入浴	1,079	189	179	14	35
④衣服の着脱	1,150	199	110	8	29
⑤身だしなみ	1,083	232	133	10	38
⑥家の中の移動	1,196	150	104	9	37
⑦外出	842	343	243	26	42
⑧家族以外の人との意思疎通	1,045	268	99	13	71
⑨お金の管理	878	229	293	57	39
⑩薬の管理	955	197	256	56	32

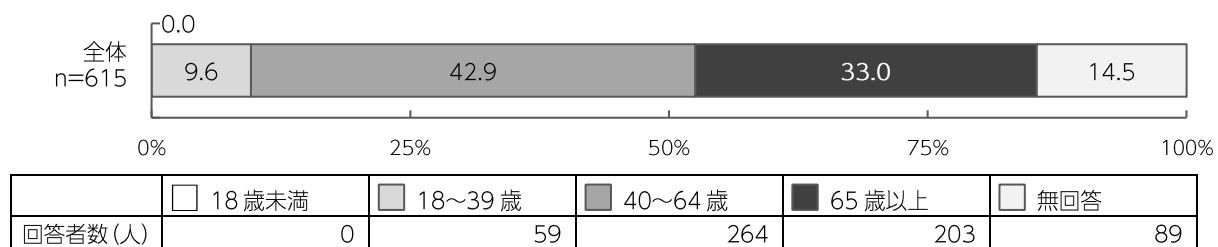
(2) 介助者の状況

- 主な介助者は、「父母・祖父母」(32.1%) の割合が最も高く、次いで「配偶者(夫又は妻)」(29.9%)、「ホームヘルパーや施設等の職員」(24.0%) となっています。
- 主な介助者の年齢をみると、「40歳～64歳」(42.9%) の割合が最も高く、次いで「65歳以上」(33.0%)、「18歳～39歳」(9.6%) となっています。
- 主な介助者の性別をみると、「女性」が64.4%、「男性」が22.1% となっています。

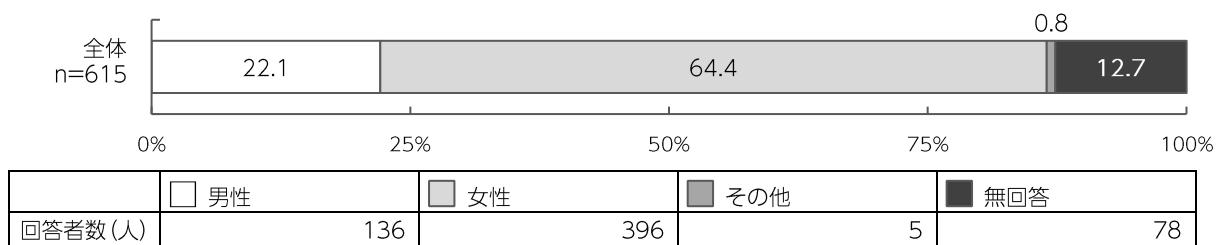
問7 主な介助者



問8-① 主な介助者の年齢(令和2年7月1日現在)



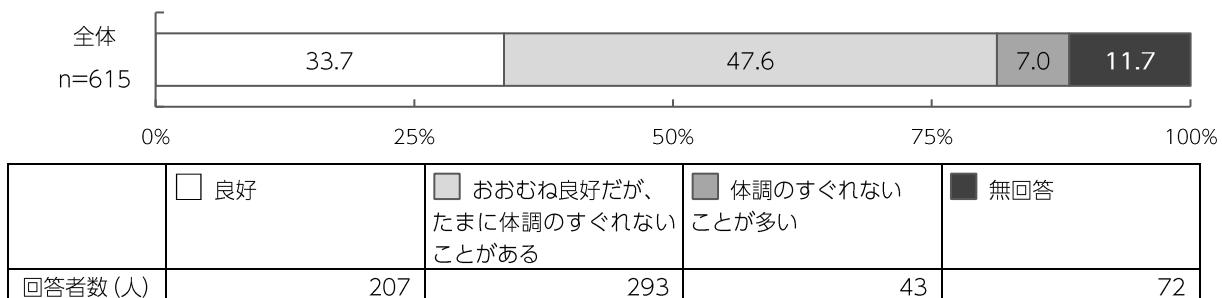
問8-② 主な介助者の性別



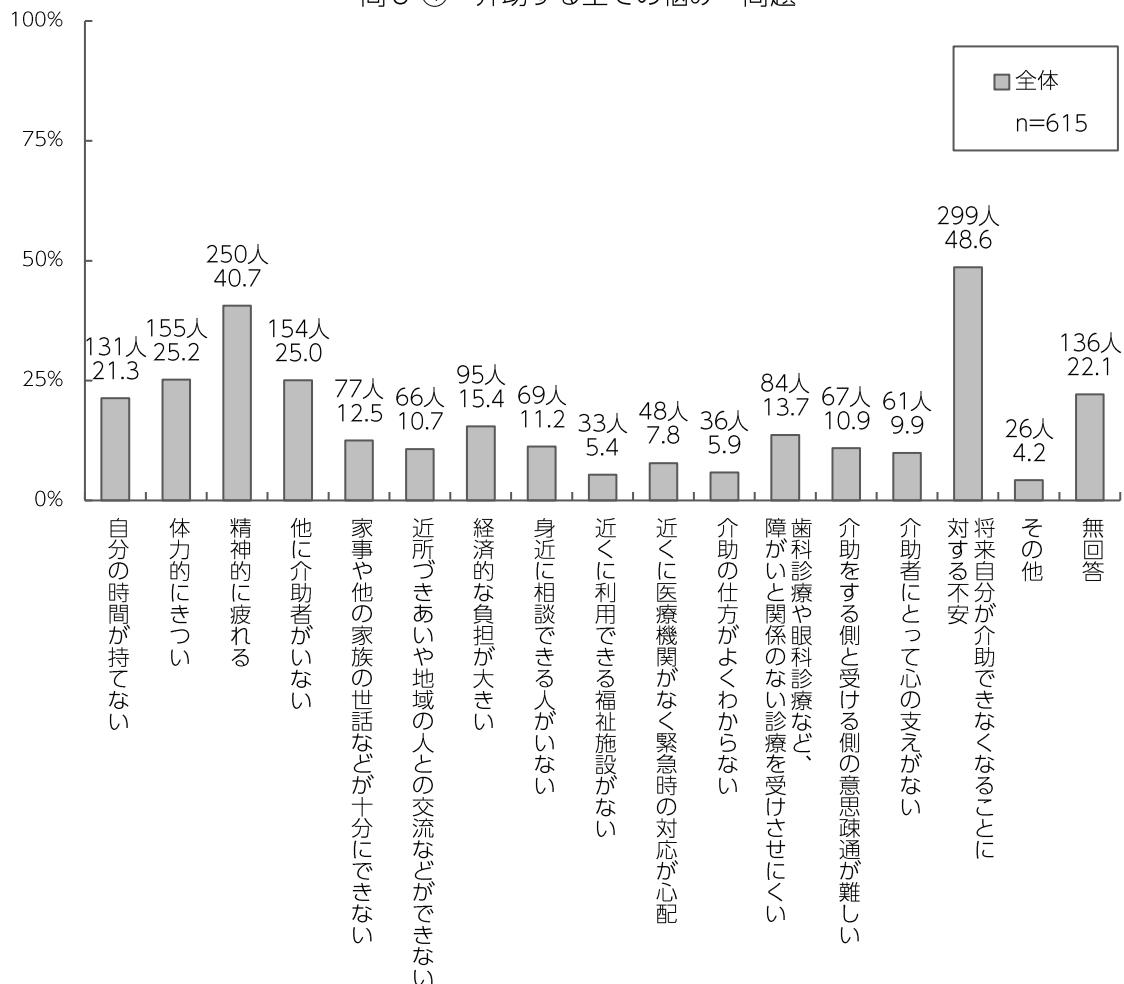
○主な介助者の健康状態をみると、「おおむね良好だが、たまに体調のすぐれないことがある」(47.6%) の割合が最も高く、次いで「良好」(33.7%)、「体調のすぐれないことが多い」(7.0%) となっています。

○主な介助者の介助する上での悩み・問題をみると、「将来自分が介助できなくなることに対する不安」(48.6%) が最も高く、次いで「精神的に疲れる」(40.7%)、「体力的にきつい」(25.2%)、「他に介助者がいない」(25.0%) などが高くなっています。

問8-③ 主な介助者の健康状態



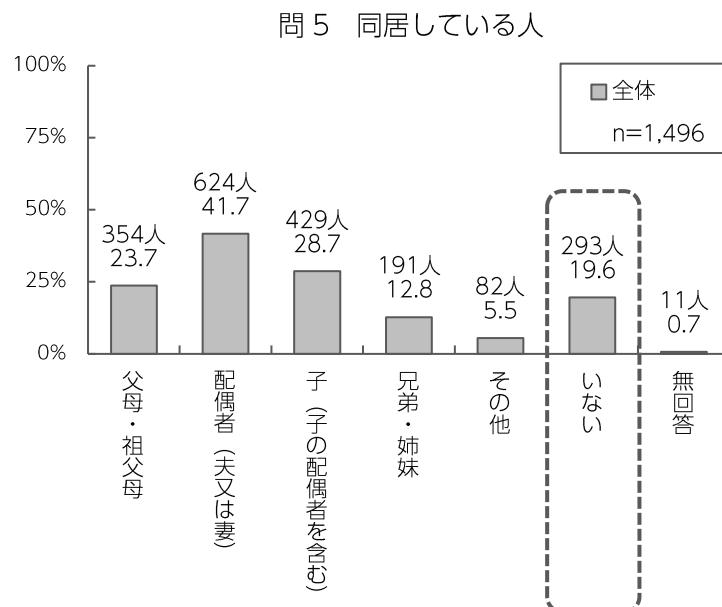
問8-④ 介助する上での悩み・問題



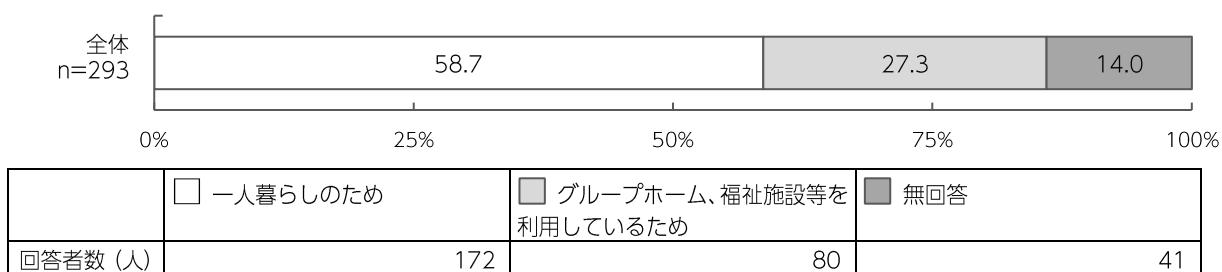
5 住まいや暮らしについて

(1) 住まいや暮らしの状況

- 同居している人としては、「配偶者（夫又は妻）」(41.7%) の割合が最も高く、次いで「子（子の配偶者を含む）」(28.7%)、「父母・祖父母」(23.7%) となっています。一方、「いない」は19.6%となっています。
- 同居している人がいない理由としては、「一人暮らしのため」(58.7%) が最も高く、次いで「グループホーム、福祉施設等を利用しているため」(27.3%) となっています。



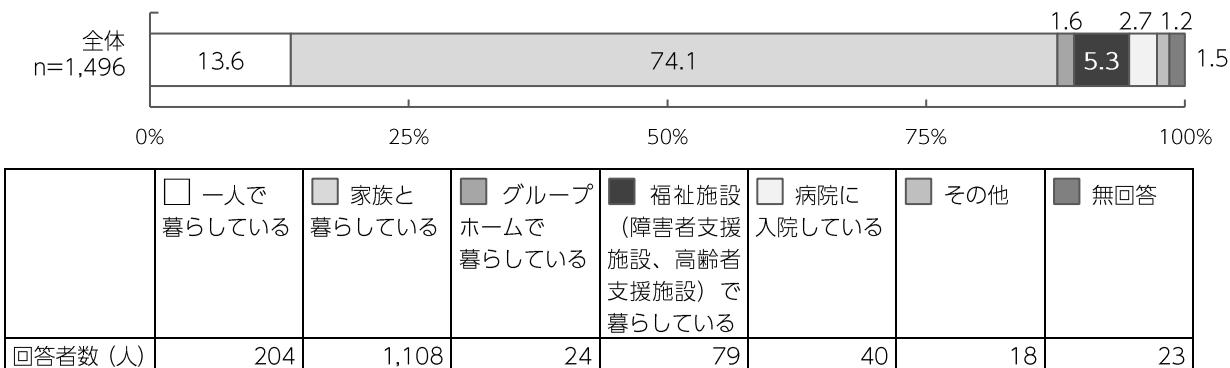
問5-1 同居している人がいない理由



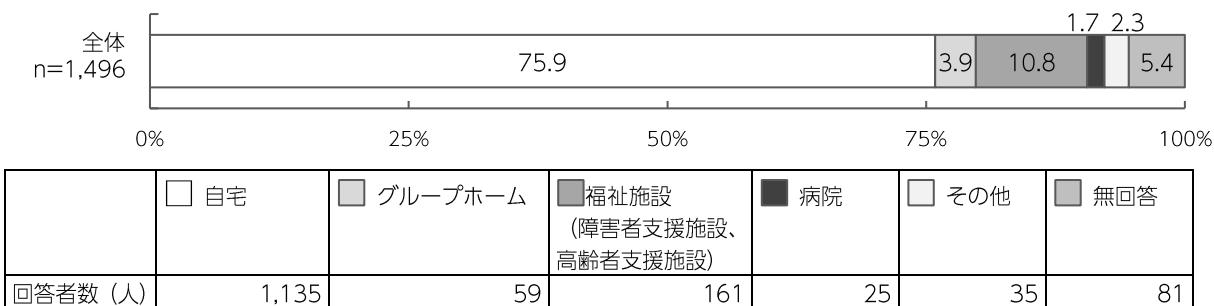
○現在は「家族と暮らしている」(74.1%) 方の割合が最も高く、次いで「一人で暮らしている」(13.6%)、「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」(5.3%) となっています。

○将来住みたい、暮らしたいと思う生活の場としては、「自宅」(75.9%) の割合が最も高く、次いで「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）」(10.8%)、「グループホーム」(3.9%) となっています。

問17 現在の暮らし

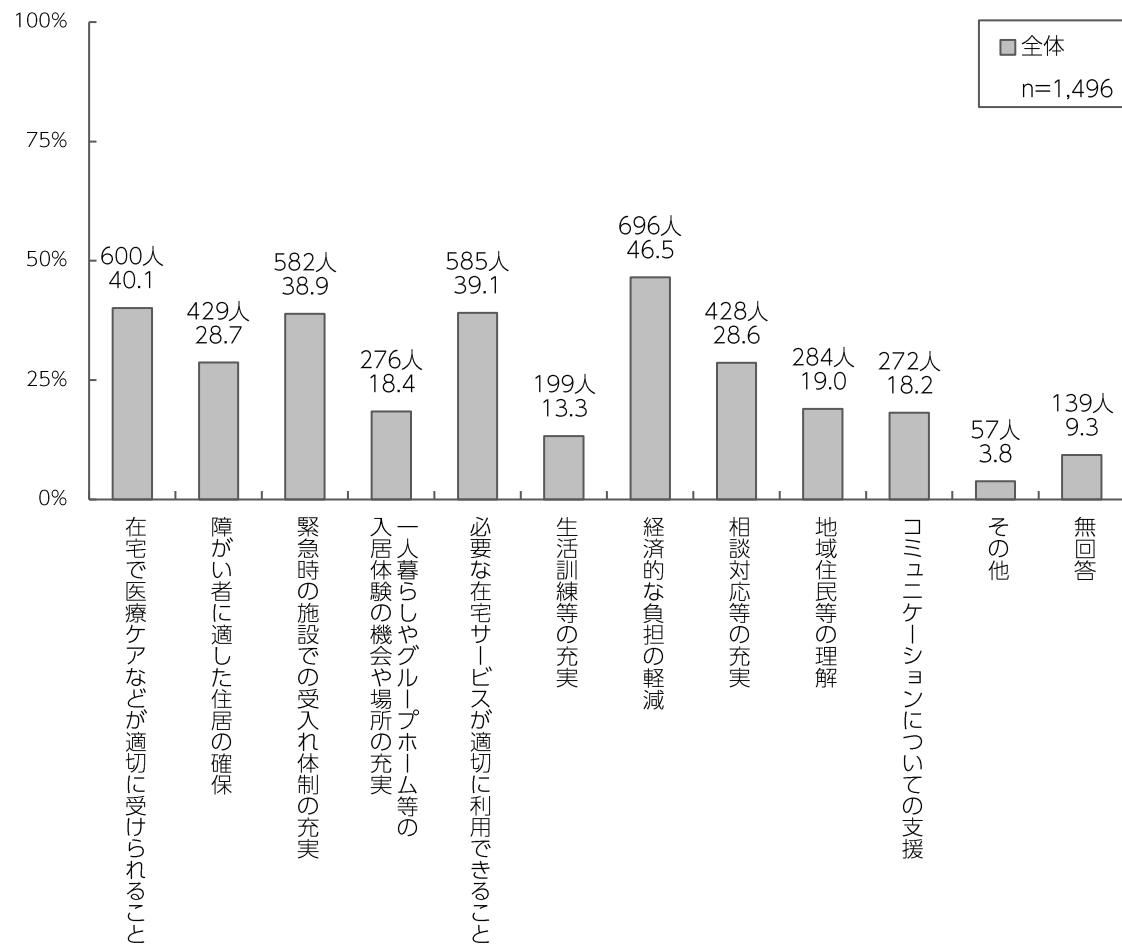


問18 将来住みたい、暮らしたい生活の場



○地域で生活するためにあるとよいと思う支援としては、「経済的な負担の軽減」(46.5%)の割合が最も高く、次いで「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」(40.1%)、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(39.1%)、「緊急時の施設での受入れ体制の充実」(38.9%)となっています。

問19 地域で生活するためにあるとよいと思う支援



6 日中活動について

(1) 外出の状況

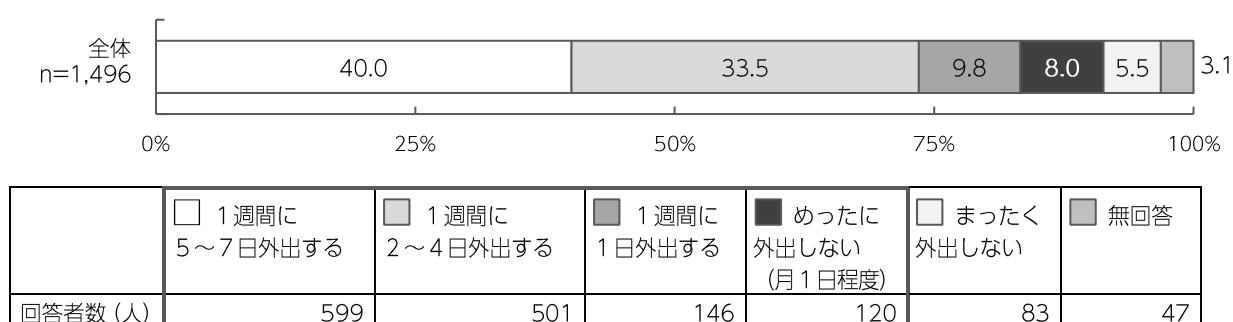
○外出頻度をみると、「1週間に5～7日外出する」(40.0%)の割合が最も高く、次いで「1週間に2～4日外出する」(33.5%)、「1週間に1日外出する」(9.8%)となっています。

一方、「まったく外出しない」の割合は5.5%となっています。

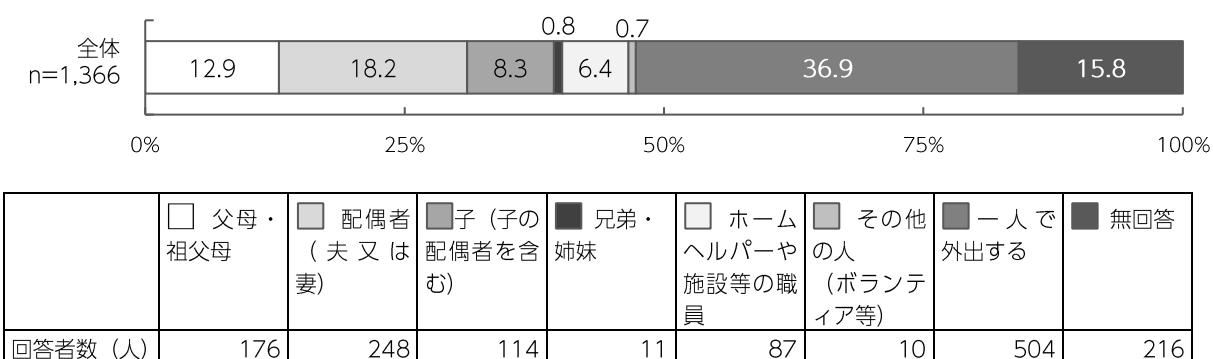
○外出する際の主な同伴者については、「一人で外出する」を除くと、「配偶者(夫又は妻)」(18.2%)方の割合が最も高く、次いで「父母・祖父母」(12.9%)、「子(子の配偶者を含む)」(8.3%)となっています。一方、「一人で外出する」方は36.9%となっています。

○外出の目的をみると、「買い物に行く」(57.5%)の割合が最も高く、次いで「医療機関への受診」(56.1%)、「通勤・通学・通所」(35.5%)となっています。

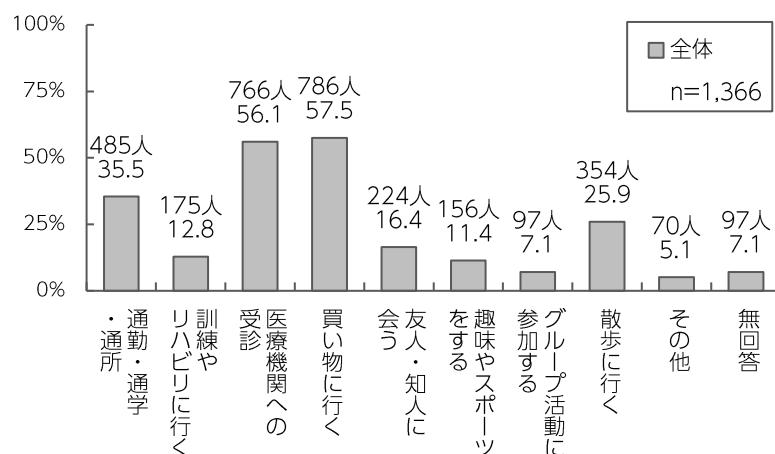
問 20 外出頻度



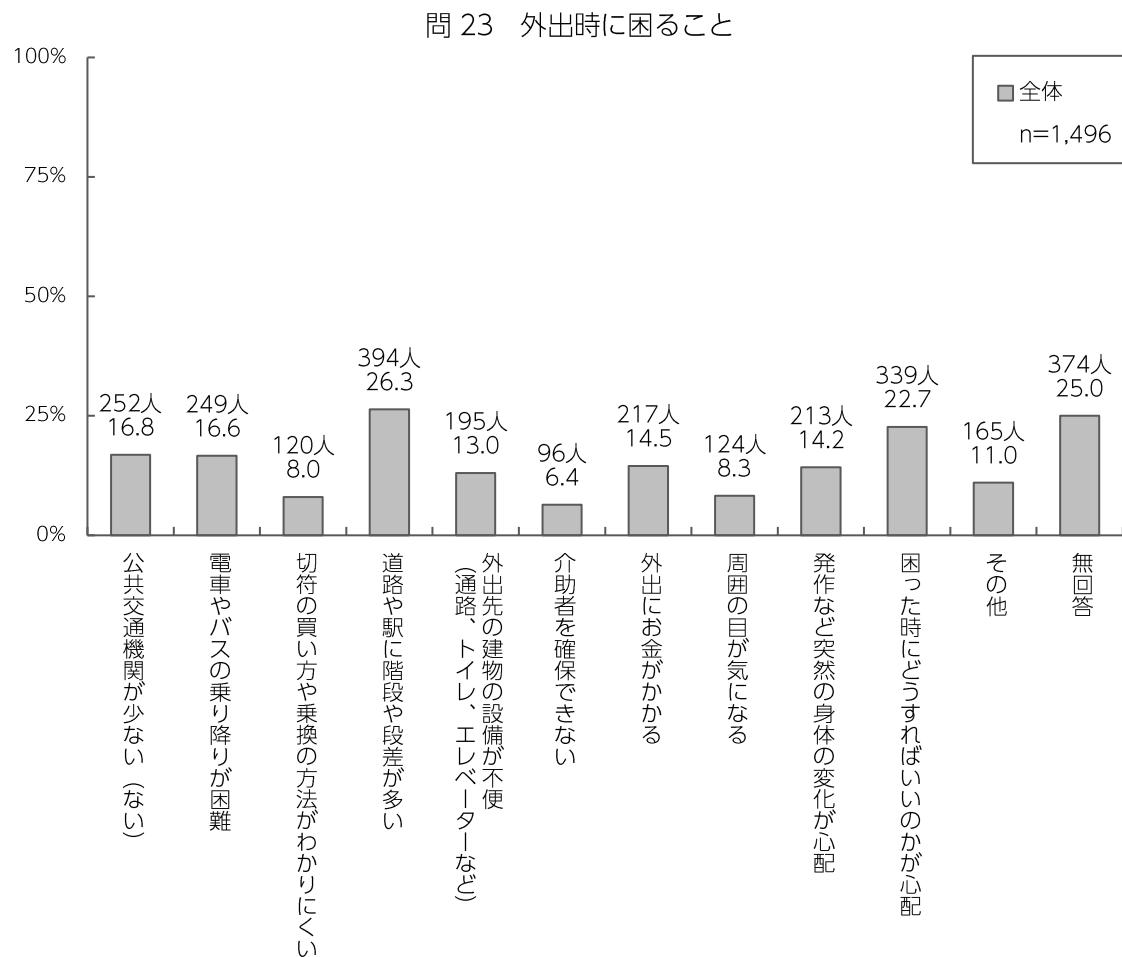
問 21 外出時の主な同伴者



問 22 外出の目的



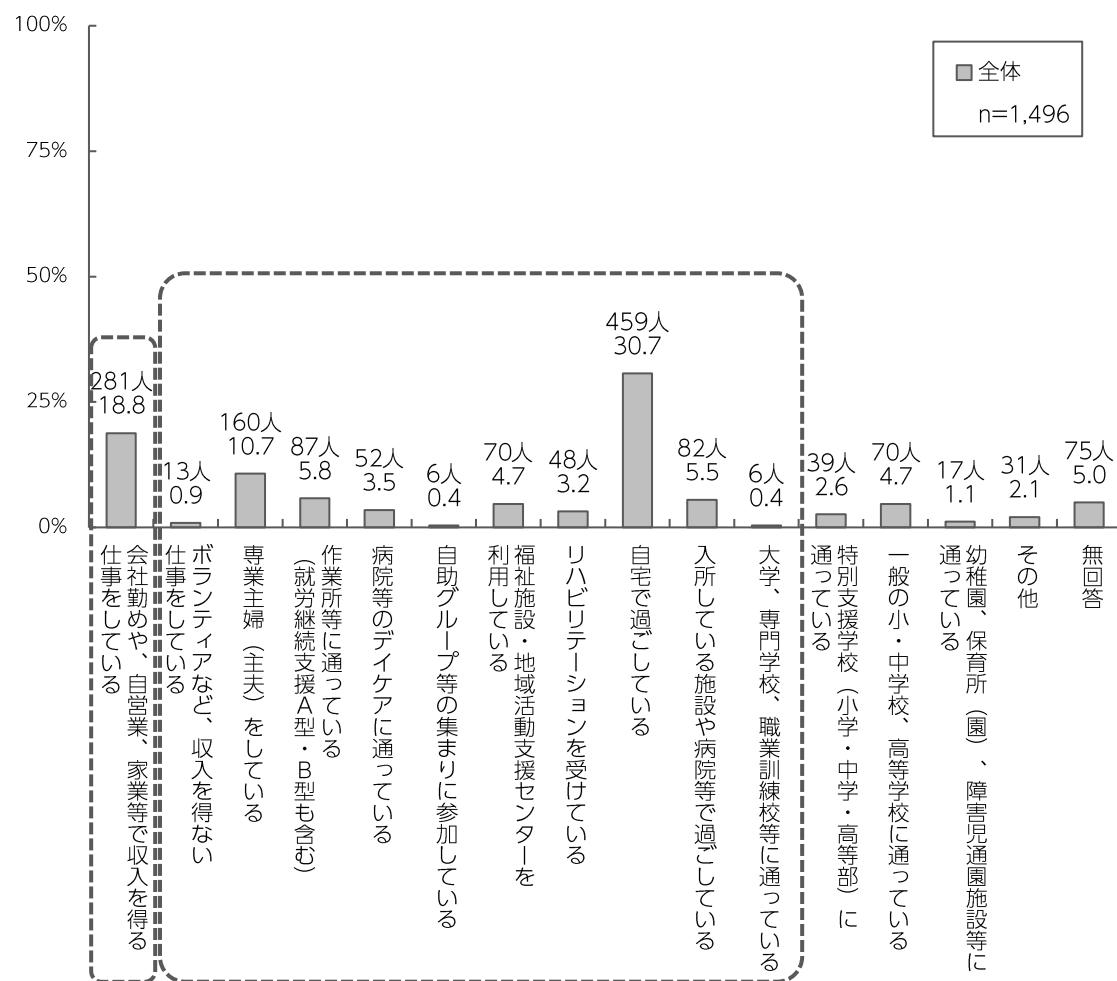
○外出する時に困ることとしては、「道路や駅に階段や段差が多い」(26.3%)の割合が最も高く、次いで「困った時にどうすればいいのかが心配」(22.7%)、「公共交通機関が少ない(ない)」(16.8%)となっています。



(2) 平日の日中の過ごし方

○平日の日中の過ごし方をみると、「自宅で過ごしている」(30.7%)の割合が最も高く、次いで「会社勤めや、自営業、家業等で収入を得る仕事をしている」(18.8%)、「専業主婦（主夫）をしている」(10.7%)となっています。

問24 平日の日中の主な過ごし方



7 就労について

(1) 就労の状況

○収入を得る仕事をしている方の勤務形態をみると、「正規雇用で他の正規雇用者と勤務条件等に違いはない」(34.9%)の割合が最も高く、次いで「パート・アルバイト等の非正規雇用」(34.5%)、「自営業、農林水産業等」(14.6%)となっています。

問 25 勤務形態

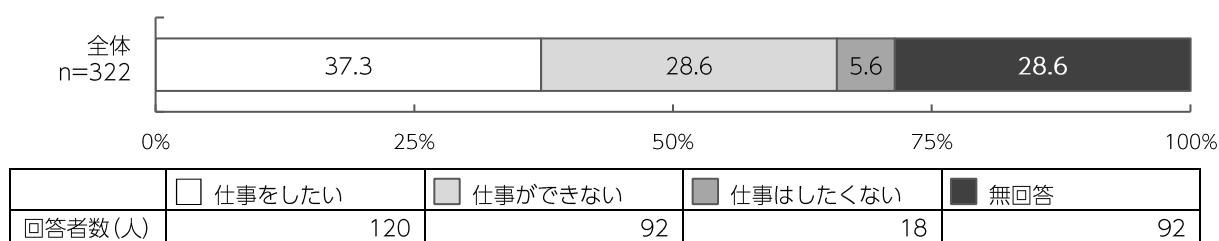


(2) 就労の希望状況

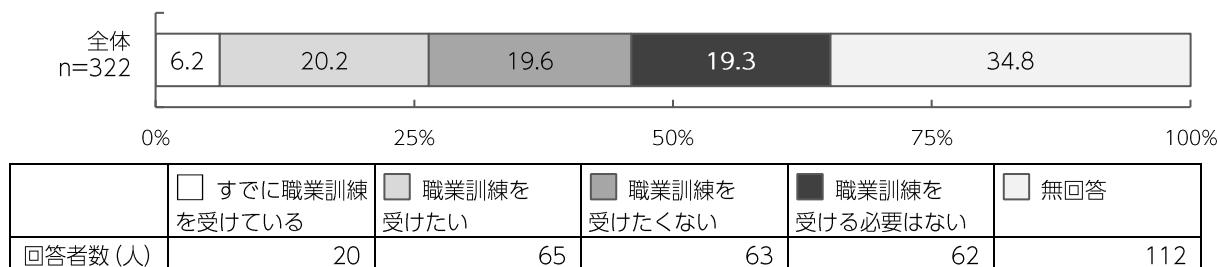
○今後、収入を得る仕事をしたいと思うかについて、「仕事をしたい」(37.3%)の割合が最も高く、次いで「仕事ができない」(28.6%)、「仕事はしたくない」(5.6%)となっています。

○収入を得る仕事に就くために職業訓練などを受けたいと思うかについて、「職業訓練を受けたい」(20.2%)の割合が最も高く、次いで「職業訓練を受けたくない」(19.6%)、「職業訓練を受ける必要はない」(19.3%)となっています。

問 26 就労に対する意向
【問 24 で「2.」～「11.」と回答した方】

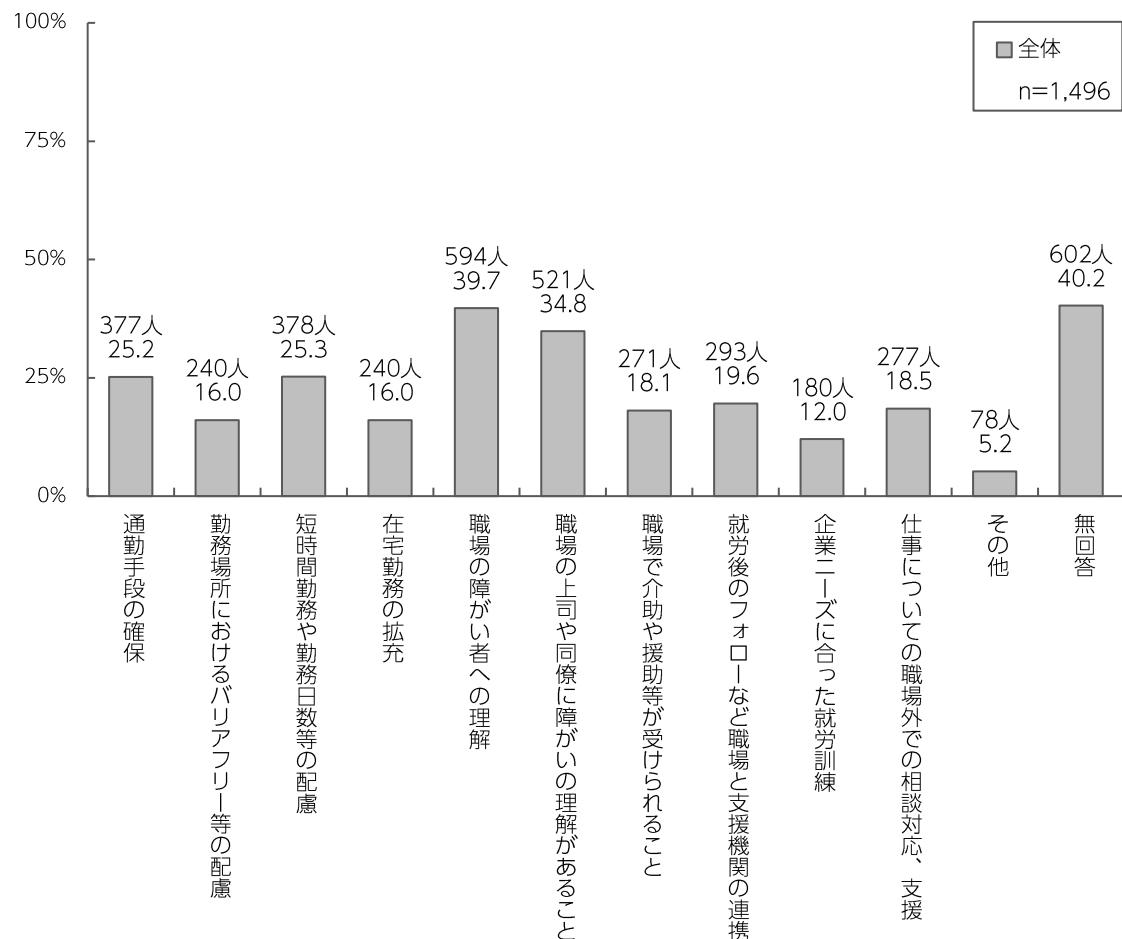


問 27 職業訓練の利用意向



○障がい者の就労支援として必要だと思うこととしては、「職場の障がい者への理解」(39.7%) の割合が最も高く、次いで「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」(34.8%)、「短時間勤務や勤務日数当の配慮」(25.3%) となっています。

問 28 障がい者の就労支援として必要だと思うこと

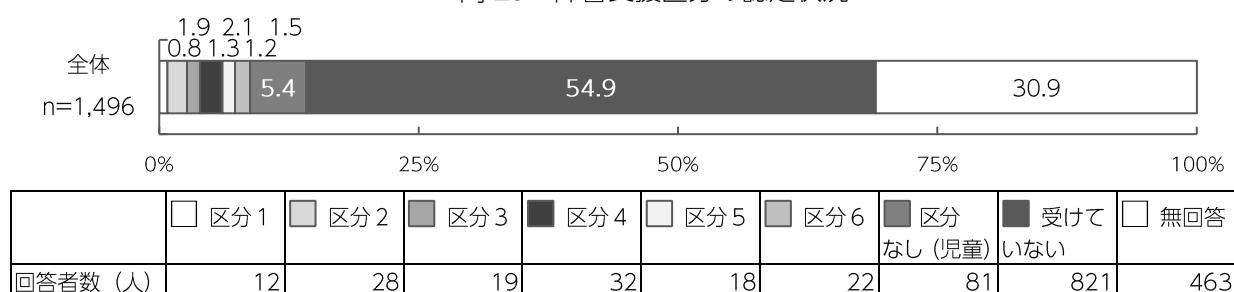


8 障害福祉サービス等の利用について

(1) 障害支援区分の認定状況

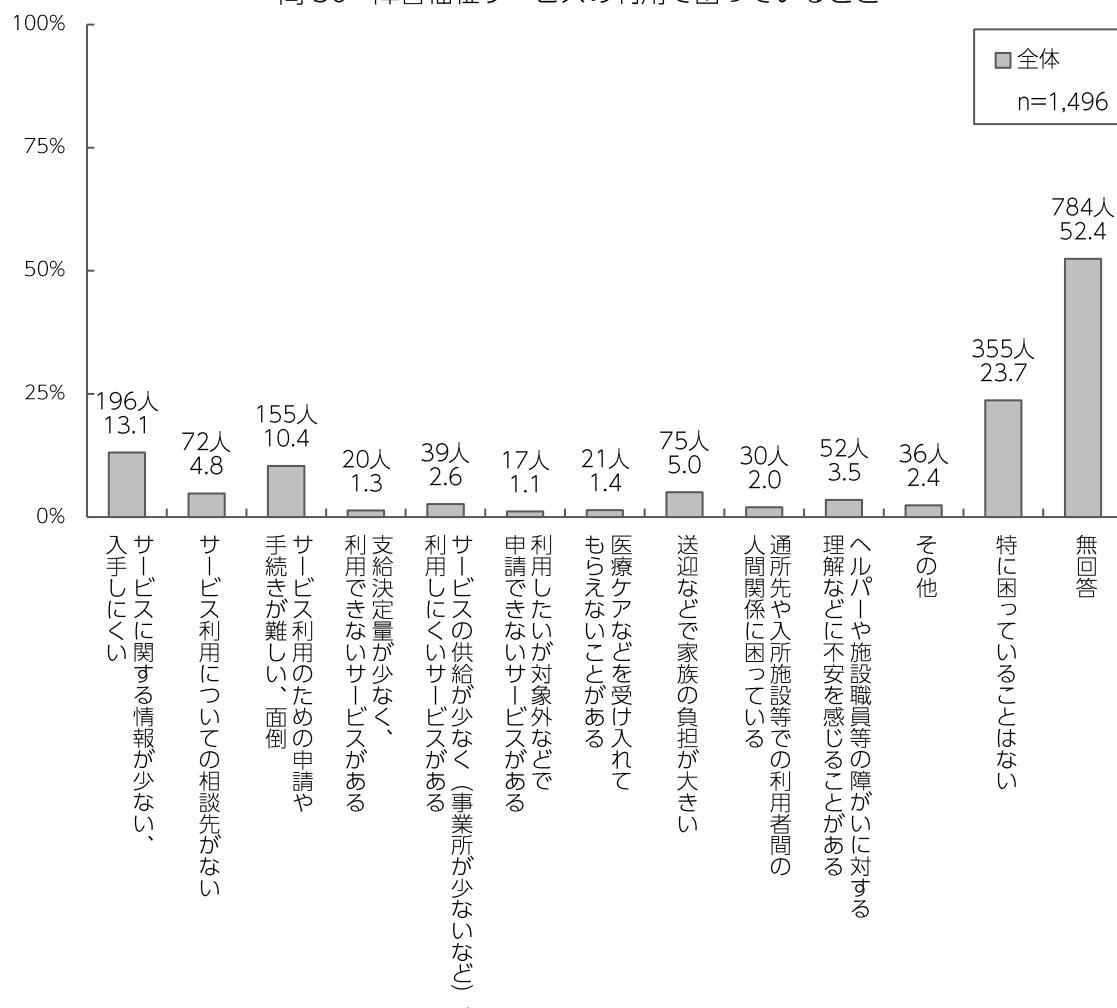
○障害支援区分の認定状況をみると、「区分1」～「区分6」、「区分なし(児童)」をあわせた14.2%が受けていると回答しています。その内訳をみると、「区分なし(児童)」(5.4%)の割合が最も高く、次いで「区分4」(2.1%)、「区分1」(1.9%)となっています。

問29 障害支援区分の認定状況



○現在障害福祉サービスを利用している方がサービスの利用で困っていることとしては、「特に困っていることはない」を除くと、「サービスに関する情報が少ない、入手しにくい」(13.1%)の割合が最も高く、次いで「サービス利用のための申請や手続きが難しい、面倒」(10.4%)、「送迎などで家族の負担が大きい」(5.0%)となっています。

問30 障害福祉サービスの利用で困っていること

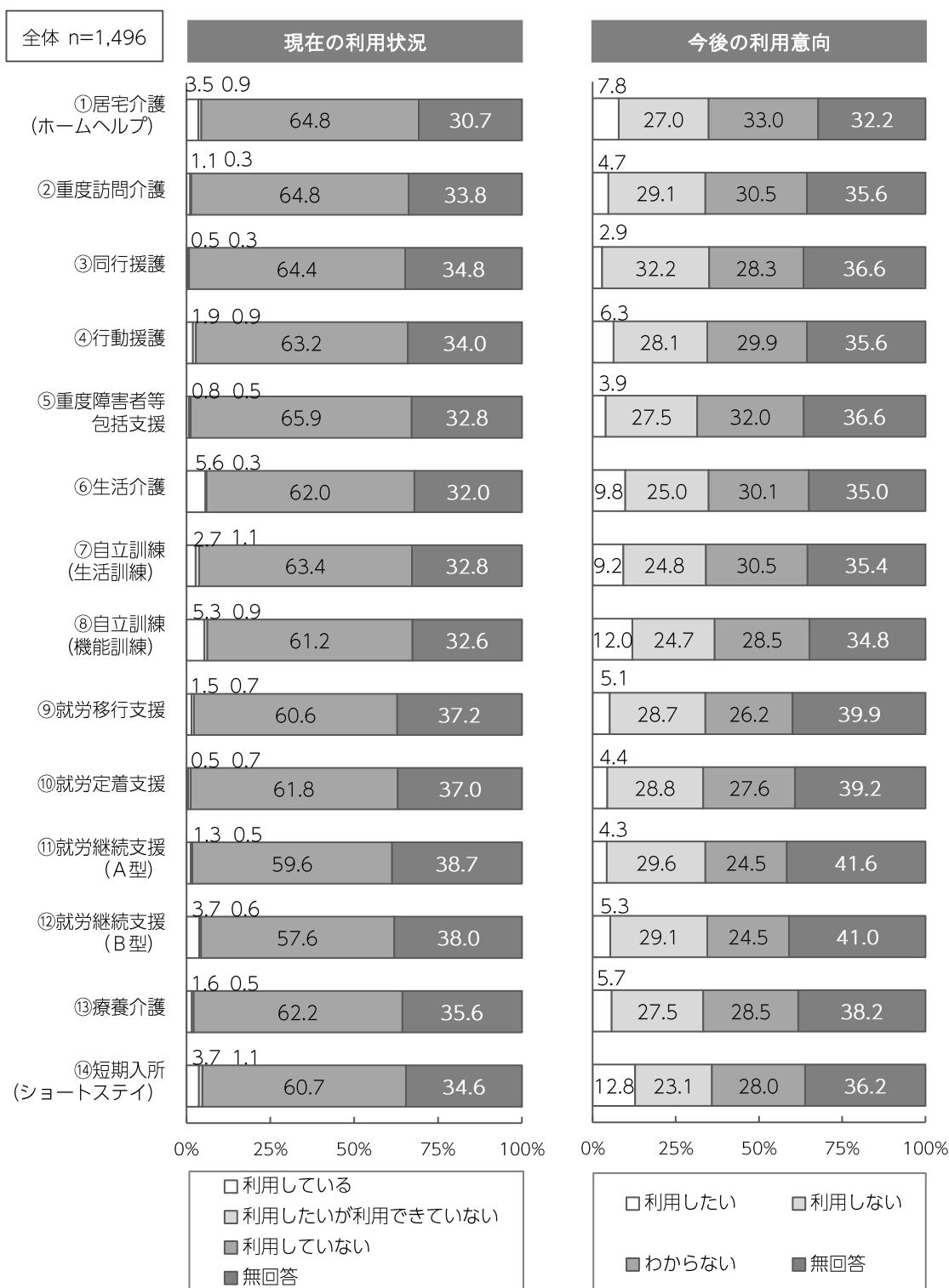


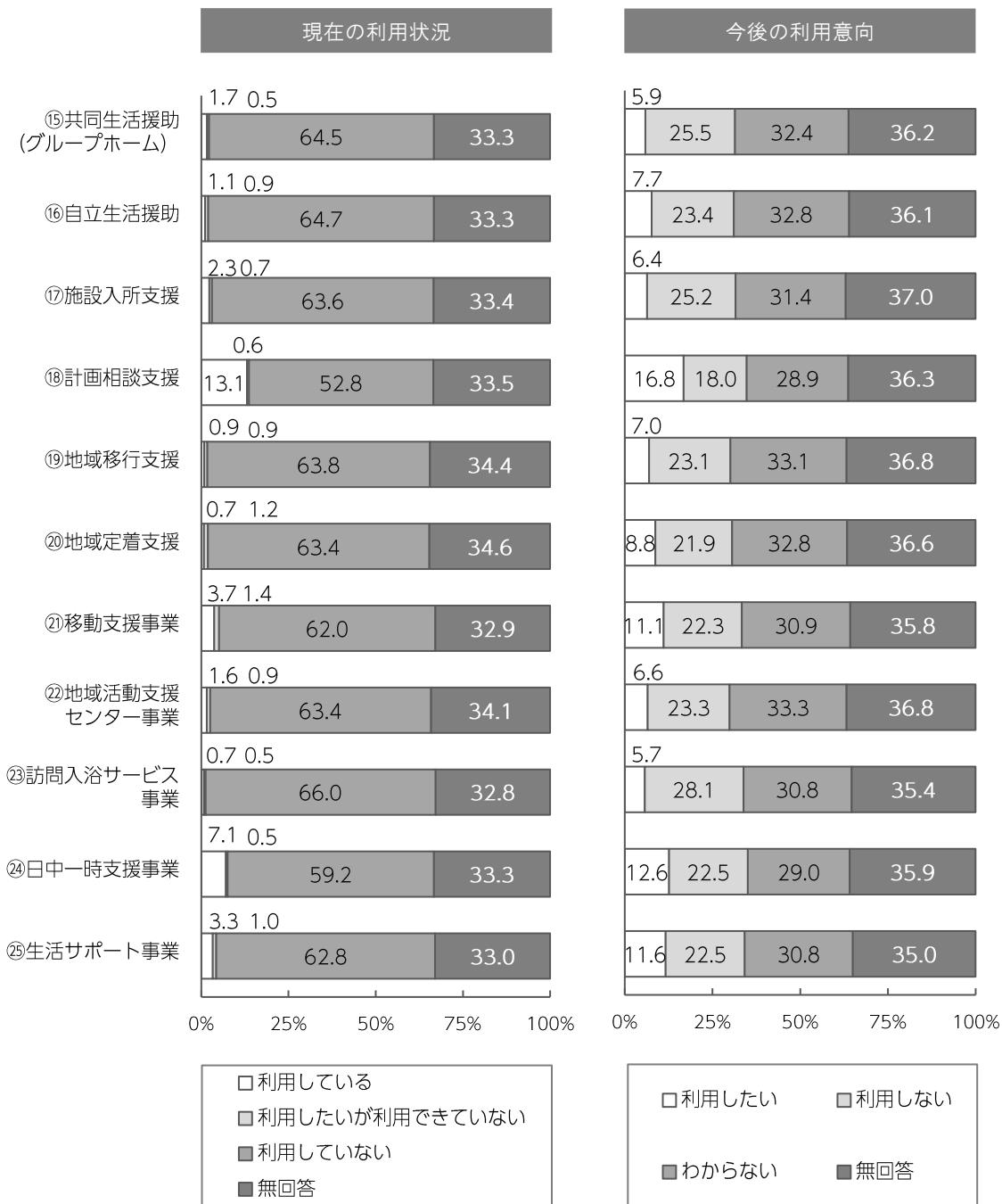
(2) 障害福祉サービスの利用状況と利用意向

○現在の利用している障害福祉サービスとしては、「計画相談支援」、「日中一時支援事業」、「生活介護」、「自立訓練（機能訓練）」の割合が高くなっています。一方、利用したいが利用できない障害福祉サービスとしては、「移動支援事業」の割合が高くなっています。

○また、今後の利用意向をみると、「計画相談支援」、「短期入所（ショートステイ）」、「日中一時支援事業」を利用したい方の割合が高くなっています。

問 31-1 障害福祉サービスの利用状況と利用意向

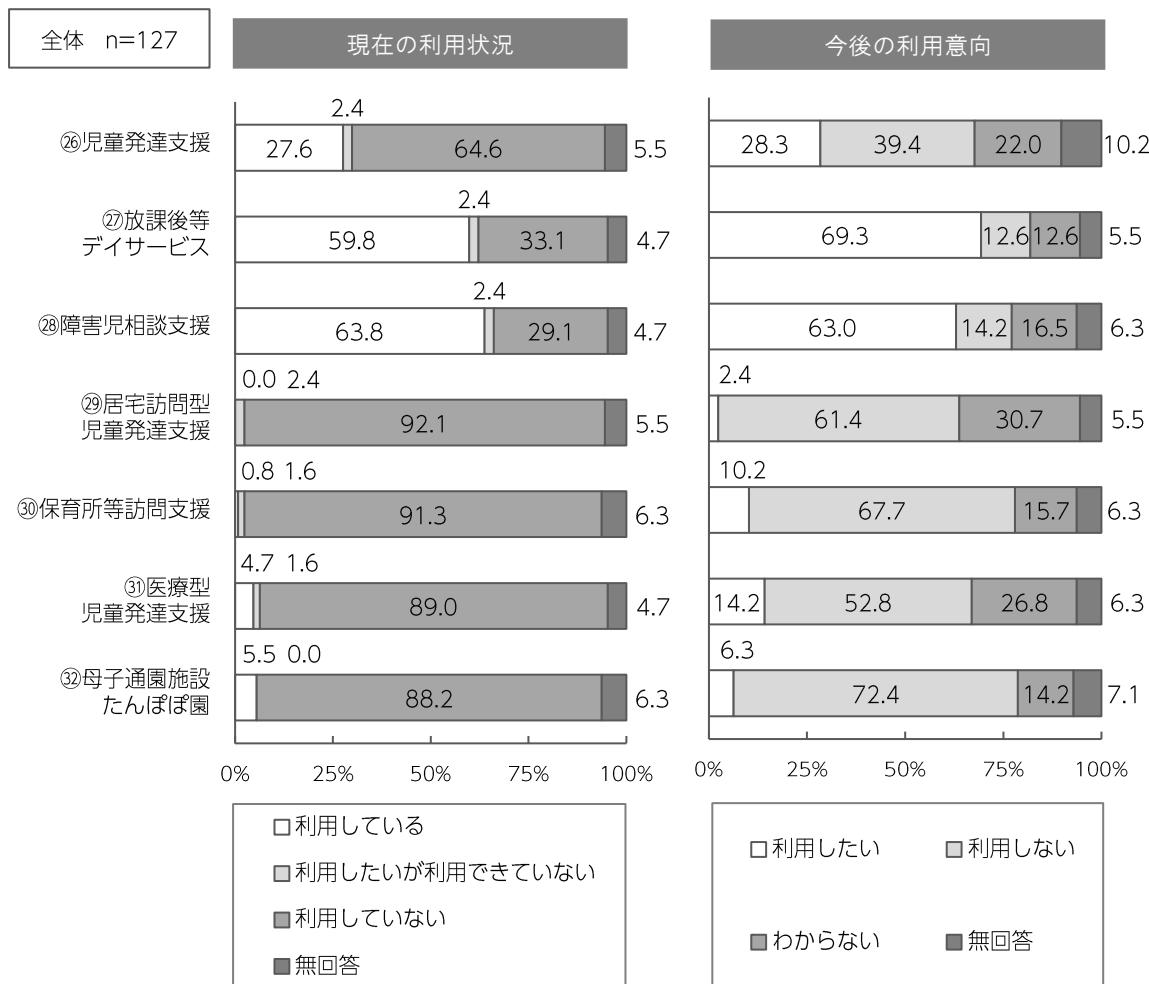




○児童に対する障害福祉サービスの現在の利用状況をみると、「障害児相談支援」、「放課後等デイサービス」、「児童発達支援」の割合が高くなっています。一方、利用したいが利用できない障害福祉サービスとしては、「児童発達支援」、「放課後等デイサービス」、「障害児相談支援」、「居宅訪問型児童発達支援」の割合が高くなっています。

○また、今後の利用意向をみると、「放課後等デイサービス」、「障害児相談支援」、「児童発達支援」を利用したい方の割合が高くなっています。

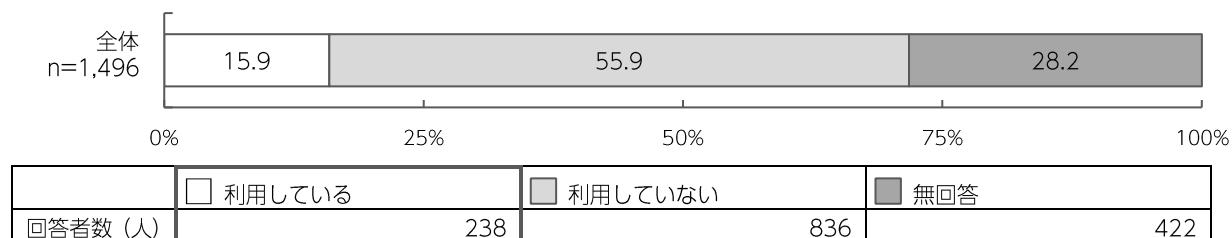
問31-2 障害福祉サービスの利用状況と利用意向



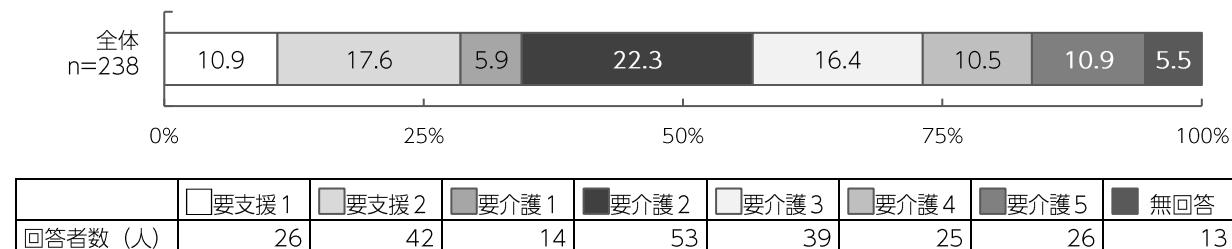
(3) 介護保険サービスの利用状況

- 介護保険サービスを「利用している」方の割合は15.9%となっています。
- 介護保険サービス利用者の介護度をみると、「要介護2」(22.3%) の割合が最も高く、次いで「要支援2」(17.6%)、「要介護3」(16.4%) となっています。

問32 介護保険サービスの利用の有無



問33 介護保険サービスの利用者の介護度



9 自由意見のまとめ

○寄せられた意見について、主な内容を要約して記載しています。複数の内容が含まれる意見については、内容ごとに分割して記載しました。

・情報提供について

○施設や事業所・事業・サービスの情報を得やすくして欲しい
利用できるサービスやその内容、新しいサービスや事業所などの情報が入手しにくいため、広報への掲載や、冊子を作るなどでPRして欲しい（現在そういうものがあるのであれば、どこでもらえるのか周知して欲しい。）。
類似4件
知りたい情報があるときなど、どこに相談していいのかわからない。
ヘルプマークの取得資格や方法などがわからない。
将来のために入所施設・グループホームなどの情報が欲しい。
○無線放送などについて、聴覚障がい者に配慮した情報提供をして欲しい
無線放送の内容がわからないため、災害時などの連絡が不安であったり、子どもに説明ができず困ったことがある。同様の内容をメールで配信する・アプリを使用するなどして情報提供して欲しい。
類似2件
○その他の情報提供の希望
コロナ禍に限らないことだが、それぞれの障がい者に対応したコミュニケーションの具体例などを記載した冊子の作成はどうか。

・障害児支援について

○保育園等の職員の加配希望
幼稚園・保育園での加配制度を導入して欲しい。
類似3件
○教職員の質の向上
小中学校の支援級において、担当教員により指導の質が異なってしまうことが心配。特別支援教育に有資格者や、経験のある教員を採用して欲しい。
類似2件
○進路や適切な療育などの情報提供・情報共有の希望
グレーゾーンや軽度の障がいで普通級に所属していると、進路についての情報が得られず、教員側も知識が足りない場合がある。進学・就職の追跡調査をするなど様々なケースを把握し、情報提供をして欲しい。
進学・就職など、わからないことや不安なことが多い。
小学校、中学校、高校と進学する際にぶつかりになってしまい印象がある。小学校から中学校への情報共有などをしっかり行って欲しい。
○早期診断とその後の支援の希望
乳幼児の健診を3才までではなく、3才半、4才、4才半、5才、6才、と3才以降の発達状態を相談や支援をしてもらえるようにして欲しい。現状では親が自分で動かなければ診断も受けられず、発達遅延の専門家と接する機会がないので早期療育が受けられない。医療的アプローチを受けられるよう、病院との連携もできるようにして欲しい。
子どもの健診の際など、もっと早く発達遅延がわかつていたら適切なサービスを受けられたのではないかと思う。どういった療育サービスがあるのか、手続き方法などがわかるフローチャートを作成し配布して欲しい。
児童発達支援を受けるのに必要な受給者証と療育手帳が別物であるなど、知らないことが多く、何を手続きすべきなのかわからないため、「〇〇なら△△ができるので手続をして下さい」など市役所側からも提案して欲しい。

	担当の保健士が新人の場合、ベテランがサポートする体制を取って欲しい。話をしてよい提案を受けられず、不安である。
○インクルーシブ教育の希望	障がい児が健常児の子供達から受ける刺激、影響はとても大きい。小学校でも、支援級前提ではなく障がい児と健常児とが普通級と一緒に楽しく学ぶことが当たり前の環境作りをして欲しい。
○軽度の判定へのケア	グレーゾーンの子どもに学習面の支援をして欲しい（デイサービスでは重度の子が優先されてしまい、通常の塾ではレベルが高過ぎてしまうため。） 療育手帳C判定の子どもに対して、医療費のサポートなどケアが少ないようだ。子どもの間は親がサポートできるが、大人になった時にサポートが受けられないことが不安。
○保護者へのケアや教室の希望	児童発達支援の保護者向けのセミナーや、精神的なケアなどを検討して欲しい。
○通学への移動支援	通学について、現在は送迎が難しいために放課後等デイサービスを利用しているが、自力での移動が難しいケースに対し、移動支援で車での送迎サービスが受けられるようになって欲しい。
○福祉金の所得制限について	所得制限で福祉金等を支給停止にしないで欲しい。

・施設サービスの希望

○グループホームの充実の希望	清須市内や駅から近い場所に、グループホームを作つて欲しい。 清須市内に、親が亡くなつた後や介護できなくなつたときに安心して暮らせるグループホームや福祉施設を作つて欲しい。 親の入院中や、夜などに緊急で預かってくれる施設があると良い。 清須市内に若者向けのショートステイやグループホームを作つて欲しい。	類似3件 類似4件 類似4件
○施設サービスに関する希望	清須市には障がい者（特に身体障がい者）の施設がなく、他市など遠い施設に入所しなければならない。せめて家族がなかなか行けなくても、安心して任せられるだけの支給量が必要。	
	尾張中部福祉の杜のような施設をもっと作つて欲しい。A型B型、生活介護事業所は少しずつ充実してきたが、入所施設は少ないと感じる。	
○リハビリが可能な入所施設の希望	入院となつた時、福祉施設ではなくリハビリ病院を選びたいが、今の制度ではそれができない。リハビリのできない入院では、身体がどんどん弱ってしまう不安がある。	
○子どもが利用できる短期入所施設等の希望	緊急時に小さい子どもが短期入所できるような場所が増えて欲しい。市の職員も、これらの施設の情報をもっと知っておいて欲しい。	

・親や家族が亡くなつたり、高齢になつたときの不安

○親亡きあととの不安や支援の希望	本人が高齢になつたとき、また親や介護者が高齢になつたり亡くなつたとき、安心して生活ができるか、福祉とどのように繋がれるのかが不安。	類似5件
	父母が亡くなつたとき、兄弟に頼ることは難しい。	

	親亡き後の生活について、支援する活動をしたい。市にもこのような活動を支援して欲しい。
○家族が高齢になった場合の不安	現在は夫が元気なので大丈夫ですが、将来夫が高齢で要介護等になった場合、うまく相談ができるかわからず不安です。

・移動支援について

○あしがるバスについて	あしがるバスの利用時に障がい者、高齢者の乗車賃の補助をして欲しい。
○タクシー利用券助成について	<p>タクシー助成かガソリン助成か選択制になっているが、両方助成（限度額は現状程度）出来るようにして欲しい。また、タクシー助成のチケットの枚数を削減し1回当たりの割引上限額を増額して欲しい。</p> <p>身体障害者手帳4級ではタクシー券の補助がないが、通院のためにタクシーを利用するため、補助があるとありがたい。</p> <p>類似2件</p> <p>あしがるバスもよく利用しますが、長距離を50分くねくね曲がるバスに乗るのはよほど体調が良くないとできないです。タクシー券の助成が一番ありがたいです。</p>
○交通費補助の希望	ひきこもりの予防や体力維持のために外出をしたいが、交通費が負担になってしまふ。病院への交通費だけでも、タクシー券以外に補助をしてもらえないか。
○移動手段の困りごと	類似3件
	親が亡くなった後、一人暮らしをするようになった場合に通院や買い物の交通手段がない。

・就労・仕事環境について

○就労の機会・情報等	<p>清須市には障がい者の働く場所が少ないため、企業にもっと働きかけて欲しい。類似3件</p> <p>子の就労に関する情報が欲しい。該当する場所を探し、全て見学して、体験してというのは無理です。</p> <p>高齢な軽度障がい者にも就労可能な機会を広げて欲しい。また、既にあるならPRをして欲しい。</p> <p>類似2件</p> <p>ハローワークについて、障がい者は名古屋まで行かなくてはならず、移動が大変なので、なんとかして欲しい。出張所などで相談できるようにすれば、就労率も上がるのではないでしょうか。</p>
○仕事の環境や相談体制	<p>市職員が、障がい者雇用をしている企業の様子、雇用主や職員の態度を体験してきちんと知って欲しい。</p> <p>社内で障がい者への差別的な待遇があるが、社内の相談窓口では知識・理解不足で対応できていない。自治体や国が間にあって、相談、支援や指導をしてくれればと思う。企業側が職員への人権教育や対応の周知をし、新たな障がい者を生まないようにするべき。そういう部分を相談する窓口があればと感じる。</p>
○その他	<p>就労移行支援に通っていたが、不採用の通知の恐怖で通えなくなってしまった。精神面のフォローをしてくれたらと思う。</p> <p>B型の作業所の給料が少なすぎる、もっと多く給料が欲しい。</p> <p>働いて稼げるようになりたいので、バスなど移動手段が充実して欲しい。</p>

・サービス等への希望

○余暇支援・つながり支援
就労のための作業場以外で、障がい者同士が交流できる場や、居場所が欲しい。 主に休日にスポーツを楽しんでいますが、送迎で親の負担が大きいため、片道だけでも習い事の送迎をヘルパー利用できるようになって欲しい。スポーツを楽しめる機会が増えると、子供達も参加するコミュニティーが増え、居場所ができるのではと思う。
○コロナ禍中の支援
難聴者や中途失聴者は手話が分かる人が少ないため、今のようにマスクを付ける日々が続くと口元を見て理解する者にはコミュニケーションがとれず孤独になってしまふ。フェイスシールドなら口元も見えてコミュニケーションも出来る。市では今後、このような難聴者に対して助成を考えて欲しい。 アトピー性皮膚炎のため、マスクをずっとつける生活で症状が悪化し、精神的ストレスもあり全身に広がって訓練施設に行けない状態になってしまった。少しでも外していると付けてくださいと言われ、理解してもらえない悲しみがある。 新型コロナウイルス感染症について、もし入院や隔離となっても、障がいのある子、人にとっては病院の医師、看護師との意思疎通が十分図れないのではないかと不安がある。これから先も別のウイルスが出てくるかもしれない、そうした感染症に対応する障がい者のための病院があると安心できる。
○その他
今は施設に入所しているが、仕事をしながら自宅で介護ができるように、有料であっても支援、サービスを受けたい。 デイサービスやB型の事業所が市内に増えて欲しい。 福祉の支援は障がいの部分のみだが、精神障がいの手帳しかなくても身体的な病気で困っていることがあったりする。そうしたことに対して支援は受けられないだろうか。 ヘルプマークが欲しいが、外見でわからない障がいでは拒否されるのではと躊躇てしまい、職員に声をかけることも難しい。郵送の申し込みができたり、気軽に手に取れる所に置いてたりして欲しい。
○サービス等への不満
就労移行支援、生活訓練を利用しているが、計画で困りごとを聞いているのに、助言や意見を求めるときそれはできないと言われ、解決しない。他にも子供っぽい事を求められたり、一斉に学校風に教える事にこだわりすぎていたりする。テレワークを教えたり、音が大きいのが苦手な人と大きな音を出す人が同じ場に居なくてすむよう調整するなどして欲しい。 リハビリテーション病院に入院していたとき、補助具を使ったが、費用の補助が他市町より少ないと残念だった。
○バリアフリー等の希望
名鉄線が高架化工事をしているが、エレベーター、エスカレーター、スロープ、手すりがつくなどバリアフリーに気を使って欲しい。タクシー、バスの乗り場まで雨にぬれずに乗れ、安全に歩行が出来るようになると良い。 類似 2 件 コミュニティバスに、シルバークーパーは乗せられないと言われた。「大きい荷物」だからとのことだが、荷物ではなく歩行補助具として購入している。利用できるようにして欲しい。免許を返納し、バスの無料券をもらったが、今のままで活用できない。 道路の白線をはっきりと書いて欲しい。また、街路樹の根が張り出している部分を平坦にするなど、歩行しやすいよう道を整備して欲しい。 類似 2 件

・災害時の対応について

○災害への不安
家族が障がい者・高齢者ばかり、または一人暮らしで、災害のときが不安である。 類似2件
災害的の避難にどう対応できるのか、行政の支援を受けられるのか不安がある。
聴覚障がいがあり、災害が起きたらどのように連絡を受けられるのか不安です。電話ができないのでメール、ファックスを使っていますが、歳とともに目も悪くなり、見づらくなっています。
○避難所等の整備
災害時の避難所に、コロナウイルス感染症の予防対策や、洋式トイレの設置をお願いしたい（しゃがめないため、洋式トイレしか使用できない）。また、体育館等ではしゃがめず、床で寝ころがれないので、ダンボールのベッドなどを用意して欲しい。
障がい者の入れる避難場所を増やして欲しい。長い時間待つことが困難で、食料などの待機列に並べません。専用の供給場所や優先カード、何時に供給するなどのカードなど、障がい者が並ばずに提供を受けられる方法を検討して欲しい。
家族も要介護の認定を受けており、もしもの時に避難する手段がない。地域の援助担当はいるが、妻は要介護5で歩行できないため、避難は自宅内の2Fへすることになると思う。

・窓口対応への意見・市職員や介護職員について

○窓口対応について
役所の職員の態度や言葉が、慇懃無礼。上から目線で物を言う。説明がわかりにくいくことがある。「障害者」という言葉に違和感がある。
福祉の窓口はどうしても職員さんがキツイ感じを受けてしまう。忙しいのはわかるが、何でも相談できるような対応をしてくれるとありがたいです。
市役所の各窓口に杖のホルダーを設置して欲しい。福祉関係の窓口にもついていません。
精神疾患の統合失調症を患っていますが、この病気に関して勉強不足の人が多いように思います。市役所の人たちや福祉関係で仕事されている人は、もう少し相手に対して思いやりを持って接したほうがいいのではないかと思います。私の周りで、何げない一言で自殺してしまった友人が何人かいいます。少し勉強していれば、相手に対して思いやりがあれば、自殺を止められたかもと思うと心が痛みます。病気になった人しかなかなかわからないと思いますが、理解する努力をして下さい。
初めて福祉サービスを受ける手続をする際、本当にそれが必要なのかという偏見を受けました。サービス自体はしっかりしていただいているが、どこでどう手続したらよいのか積極的な情報開示がなく、周囲のサービスを受けている方々から話を聞きながら手探りで進めた感があり、そのことでも福祉サービスを受けることが後ろめたいような気になりました。悪用される方もいるようなので仕方ないのかもしれません、知識もなく不安な状況を受けてみただけたらよかったです。
○相談窓口の希望
ちょっとした家庭内の直し物や、大きな物の移動が出来なくなってきた。そんな時に身近で相談出来る場所があると良いと思います。
聴覚障がい児の放課後デイサービスについて、清須市で対応が難しい場合、広域（北名古屋市、豊山町、清須市の二市一町）で1つ設けて欲しい。
また、聴覚障がいがある高齢者、ひきこもりの中年の方たちが相談しやすい、自立支援出来る場を、広域でもいいので1つ作って欲しい。

受けられるサービスを総合的に教えてくれるアドバイザーのような人を市役所に常駐させて欲しい。障がいのことゆえ、同じ状況の知人にも聞きづらいことが多く、専門的な人に相談できる環境を整えて欲しい。

どこに相談するのかわからない。訓練もどこでやっているかもわからない。病院にきいても患者がいっぱい入れないといわれる。市役所は把握していない。放課後等デイサービスもいっぱい入れない。きちんと把握して、支援して欲しい。

放課後等デイサービスを利用していたが、離婚等でだんだん生活リズムが変わり行けなくなった。だからといって市が支援してくれるようなことはなかった。介護保険みたいに、ケアマネみたいな人をつけてもっと身近に相談できる人がいると、もっと障がい児の親はやりやすいと思う。

○手続きの煩雑さについて

児童発達支援を受けるため受給者証が必要だが、児童精神科を受診させるのに何ヶ月もかかり、すぐに利用できないのが困った。医師の診断はもちろん必要であるが、面談等でその子供に必要であるか話し合い、すぐに利用できるようにして欲しい。

申請書類を簡素化し、委任状がなくても地域担当の方が代行してもらえるようにして欲しい。

福祉の書類や検診の問診票等、市役所のみでの提出又は受取りになっている。なぜ各保健センターにて受付できないのか。市民に“優しい市”にして頂けることを心より願う。

サービスの更新など支所でできないか。市役所までの行き帰りが大変です。

SNSなどを活用し申請手続きがとれると良い。

・受給者証・認定について

○受給者証の活用機会について

私は、発達障がいと聴覚に異常があり、障害者手帳を持っていますが、手帳を活用する機会が少なく、どうすればもっと障がいについて理解してもらえるのか不安です。

精神障害者医療費受給者証を持っていますが、清須市以外の精神科で利用しようとすると「使えません。」と言われ困っています。現在妊婦ですが産婦人科で提出した際も言われました。もう少し愛知県内で精神障害者医療費受給者証がいろんな病院で使える事が病院側に理解してもらえるようにしていただけたら良いかなと思いました。

○申請手続きへの疑問

精神障害者保健福祉手帳の有効期間は2年間ですが、入院等が長期間の人の場合、もう少し長い期間にして欲しい。

・経済的な不安・支援の希望

○経済的な不安

子どもの7人に一人が貧困といわれています。またワーキングプアとよばれる年収200万円以下の障がい者が98%になっているという報告もあります。未来ある子ども達、またコロナの影響で収入が減ってしまった障がいをもった方も大勢みえます。清須市の福祉施策の充実を期待しています。

○経済的な支援の希望

複数の障がい児がいても福祉サービスは1人分の一定料金なのに、親の収入が多いからといって一定以上の料金を徴収するのはおかしいのではないか。子供に対するお金は1人1人同じであって欲しい。

最近は物価も高くなり医療手当だけでは補助具は満足に揃わず、出費がかさむようになりました。そのため必要最低限のものは補助できるようにして欲しい。

現在精神障がい3級の認定を受けています。会社勤めをしていますが、給料が安くギリギリの生活をしております。母と2人暮らしで尚かつ自分本人も離婚もしております、養育費も払っております。できれば金銭面において、市から援助してもらえば助かります。母子家庭にはいろいろ支援があるのに、自分みたいな立場の者には何の支援もありません。不公平だと思います。一度、検討して頂けるとありがたいです。

福祉金の支給額を増やして欲しい。

脳梗塞で入院し、今までの施設から介護医療院に入所しました。今までは母の年金で何とか賄えていたのですが、今回の施設は倍の額になり、家族の負担がとても大きくなりました。しかし遠くの施設（価格が安い）に入所しても、会いに行くことを考えると、近くの施設で何かがあった時、すぐに行きたいと思っているので仕方ない事です。でも、もう少し経済的に保障して欲しいのが本音です。

・障がい者差別・理解の拡大について

○障がい者差別について

介護者からの意見です。数年前ですが、車いすであしagarバス利用の際、車に乗せた時にブザーが何度も鳴り、結局車いすから降りて利用しました。別のバスではお客様は良い対応をしてくれましたが、運転手さんがあまり良くありませんでした。「また乗るの？」と言われ、本人は傷ついてあれから利用していません。

障がい者を理解されない。

「ヘルプマーク」毎日つけていますが、認知度が低く、残念に思う。

見た目には分からぬ精神疾患は、人に言えば見る目だけが変化し距離を置かれ、理解はされづらい。言わなければ、辛い場面を回避できずに過ごす。偏見を理解に変えられる機会をどうしたら増やせますか。

・他の要望

○全体的なサービス・支援充実の希望

社会福祉サービスの充実、障がい児支援の充実など、清須市の全体的なサービスの充実についてのご意見
類似12件

・アンケートについて

○アンケートの内容について

設問数が多く、わかりづらいところがあり、回答が難しかった。 類似7件

性別欄をなくして欲しい。

アンケート集計結果を周知して欲しい。

アンケートで実態を把握し、その後この結果がどのように活かされているのかがよくわからない。福祉サービスなどが、どのように充実してきているのか、実感がない。

アンケートでは自分の意思がきちんと伝えられているか、答えられているか不安です。意思疎通が難しい人もいるので、直接聞き取りなどをして要望を聞いて欲しい。 類似2件

資 料 編

資料編

**清須市
福祉に関するアンケート調査結果報告書**

発行日 令和2年9月

発行元 清須市役所 健康福祉部 社会福祉課

住 所 〒452-8569

愛知県清須市須ヶ口1238番地

T E L 052-400-2911 FAX 052-400-2963

U R L <https://www.city.kiyosu.aichi.jp/>